

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298800077		
法人名	株式会社ケアサービス・まきの実		
事業所名	やつかガーデン		
所在地	千葉県南房総市富浦町深名656-1		
自己評価作成日	平成28年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成28年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設されているデイホームと季節の合同行事を開催。盛大に行われる。 ・地域行事の秋祭りにて神輿の来所あり。 ・周辺に自然が多くあり、散歩を楽しめる。 ・旧八束小学校跡地に、幼保一体型のこども園の建設あり。子どもたちとの関わりがもてる(見込み)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地元秋祭りに合わせて開催する当事業所とデイサービスとの「やつか秋祭り」は、祭囃子とともに2基の神輿が立ち寄る。職員と利用者・家族は「やつか鍋」を準備し、住民を含め100名以上が集まる地域の行事となり、地元新聞にも掲載されている。デイサービスとの行き来や合同行事も盛んでお互いに楽しんでいる。事業所は介護度の高い利用者も多いが「常に相手の立場、気持ち第一に考えた行動」などの3つの目標を掲げて利用者に寄り添う介護を目指している。管理者を中心にした職員のコミュニケーションの良さとチーム介護は、職員定着率の高さにも結びつき、職員は「どんな困難者も受け入れ、やつかが地域の最後の砦になる」思いを持って、いつも笑顔で話しかけ、「ゆったり」したくつろぎのある生活を支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての職員がそうではないが、地域との繋がりを重点におき近隣住民との関わりを持つ事ができている。	法人理念及び職員で話し合っ作り上げた3つの27年度ホーム目標を掲げている。理念、方針が活かされた支援が出来ているかを職員ミーティングや引き継ぎ時に話し合い、実践に活かすようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方々や、民生委員と交流を持っている。以前に比べるとやつかガーデンが地域に浸透してきている。	自治会に加入しており、散歩の際には近隣住民との挨拶やボランティア受け入れなど交流がある。利用者や職員で準備する「やつか祭り」などは利用者・家族、住民を含め100名以上参加の地域の恒例イベントとなっている。	28年4月にすぐ近くの小学校跡に保育園も開所するので、子どもたちとの交流も是非実現願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として地域との関わり、認知症に関する講座を定期的に開催をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場にて近況報告、事故報告、行事報告を実施。内容により、参加者より質疑があったり、岡本川に関する同一の問題点を協議する事ができている。	利用者家族・地域包括支援センター・民生委員3人・地域代表などの参加を得て年6回開催している。運営状況報告し、地域や行政の取組についての説明がある。特に隣接する岡本川の大雨時の氾濫については、区長、市を通じて県まで問題点を提起することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に適宜連絡をとり、協力関係を築いている。	相談事や、提出物があれば地域包括支援センターや南房総市の窓口を訪問して、運営状況、河川氾濫、法人主催の「まきの実講座」などを説明している。市からは避難訓練時の補助用具の貸与を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしない事に関して認識を持っている。合わせてスピーチロックなども都度管理者より指導を行っている。	身体拘束しない支援を掲げて取り組んでいる。県主催の研修会参加者によるミーティング時の伝達講習や、カンファレンス会議や引き継ぎの際にスピーチロックも含め話し合い、周知している。施錠は家族の了解も得て、夜は実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止を徹底している。また、グレーゾーンと呼ばれる曖昧な段階であっても各職員が認識を持っている。虐待防止の研修にも参加をし、情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	全ての職員ではないが、成年後見制度を学ぶ機会を持ち、必要時に話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には特に重要な事項について噛み砕いて説明を行ったり、不明な点は問い合わせができるような体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望について速やかに対応できるものについては時間をおかずに、取り掛かり、時間が掛かる事柄についてはお互いに納得できるよう話し合いの場を持っている。	利用者の要望は介護時、家族は来所時の話し合いの際に伺っている。遠方の家族は電話して確認している。家族と職員の関係は良く、いろいろな要望を聞き、ホームミーティングで共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての内容がそうではないが、職員と意見交換を実施し、不満のないように要望を受け入れる。	法人全体で職員アンケートを実施し、年2回の人事考課の面接時に意見を把握する仕組みがある。毎月のミーティングや、申し送りの際に検討し、本部へ報告するなど、運営に反映させ改善に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の面接時に職員にとって必要なスキル等を話し合う。やりがいを感ぜられるような声掛けを適宜実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修等オープンな募集をかけ、参加希望者はできるだけ出席できるようシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を設けており、各人が情報共有できるよう調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望をできるだけかなえられるようにケアに取り組んでいる。また、ケアプラン作成時にも同様のことが言える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を出来る限りかなえられる様に、話し場を設けたり、入居時に意向の確認を行っている。また、状況に変化があった際には都度確認をおこなっている。ケアプラン作成時にも同様である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つの策だけではなく、多面的に判断できるよう他職員と情報共有を行い、利用者、家族にとって一番良いと思われるケアを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「させて頂く」という気持ちを常に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。その意識が薄れないように都度管理者からも声をかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報共有を行いながら、本人にとって一番良いと思われるケアを実践する。必要時には家族へ面会を依頼する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便物や電話等本人から要望があった際には速やかに対応を行っている。また、面会時にも気持ちよく過ごせるよう配慮する。	友人知人・同級生・教え子・兄弟など旧来からの知己の来訪がある。手紙や年賀状の作成などを支援している。自宅の庭や畑の様子を久しぶりに見せてやりたいと、家族が本人を連れて行くなどの支援もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を職員が判断をし必要時には職員が間に入り、会話の橋渡しを行っている。職員が多く入り込まないよう配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した場合、家族と連絡をとり、近況の様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者主体のケアができるよう都度職員同士で検討をしている。また、職員主体を感じられる際には互いに注意できる環境づくりを行っている。	日々の会話・対応を通して信頼関係を醸成し不安を和らげ、本人の意向や興味のあることを引き出している。職員間では共通理解にて支援に取り組んでいる。家族からは「家にいたときよりも穏やかになった」と安心の言葉を頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、職歴等を各職員が把握を行い、それに添ったケアを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が情報共有を行っている。必要時には対応方法について話し合いを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認しながらケアプラン作成を実施している。また、本人の状態に変化があった際には速やかにプラン内容の変更を行っている。	介護計画は本人・家族の希望や、申し送りノート・意見交換シートや職員の意見等を基に、3か月ごと及び状態変化に対応して作成している。医療を重視した「本人が穏やかに過ごせる」ことを基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を分かり易く記録に残し、職員同士で情報共有を行っている。必要時にはケアマネージャーにその内容を報告し、ケアプラン作成時に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応を実施している。本人、家族が満足できるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの地域資源を把握しており、本人が満足して暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の訪問診察を実施している。また、その他、体調不良時には都度医療職と連携を図り速やかな対応を実施している。	契約時にホームの訪問医への変更をお願いしている。月2回の訪問往診や訪問歯科の来診がある。医療依存度の高い方が増えており、法人の医療機関と連携した24時間連絡体制により、利用者・家族から安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察を行い異常時には速やかに報告を実施し、対応、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院相談員と情報共有を図り、主治医と連携を図り早期に退院、また退院してからはそれまでの生活に速やかに戻れるようにフォローをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望をもとに主治医と話し合う場を設け、互いの意思確認を行っている。事業所としてできることを行いながら、家族、医療職と情報共有を図っている。	「重度化しても最期までホームで過ごしていただける」ことを契約時に説明している。入院を断られ、かつ自宅では介護しきれない重度化の方の入居も受け入れ、本人・家族をフォローする思いで対応し、避難所的存在と自負している。昨年も何人かの方を見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には管理者や医療職に速やかに報告を行い、指示を仰げるような体制となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施し、夜間帯や水害等あらゆるシチュエーションを想定しながら実施している。また、やつかガーデンは南房総市の福祉避難所に指定されており、その点においても地域との繋がりがあがる。年に数回開催される会議にも参加をしている。	夜間の火災発生や災害を想定した自主訓練を3回実施した。今年度はホームの目の前を流れる岡本川の氾濫を想定し、避難の優先順位や自分たちの身を守ること、ヘルメットの用意などを学んだ。また2年前から市の福祉避難所にも指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬い、その人らしく生活をおくることができるように職員一人一人が配慮をしている。	言葉遣いや対応などその方を尊厳を傷つけない対応を心掛けている。写真の撮影や掲示などは本人・家族からの承諾を必須としている。また家族がSNSネット上に投稿する際など、他者が写っている場合に承諾を得るように話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からはたらきかけだけではなく、選択できるような声掛けを実施したり、本人の意思を尊重しながらケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせた生活を送っている。また昼夜逆転にならないよう、日中の関わりを多く持っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着用する衣類等本人に選んでいただけるよう声掛けを実施している。また、整容時には鏡の前に誘導をし、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニュー内容を教えながら一緒に昼食をとっている。旬の食べ物の話題や実際に野菜等を畑で収穫し、喜びを感じられるように支援している。	一緒に食事作りの出来る方はいないが、後片づけや食器拭きなどその方の出来ることを見極め、役割意識を持って頂いている。季節ごとの行事食や夏場はホームの畑でトマトや胡瓜など夏野菜の収穫を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分、食事量の把握を行い少ないと感じた際には代替品の提供、環境の整備等工夫を行いながらケアにあたっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に不快がないようにケアを実施したり、口腔内の異常が確認できた際には歯科医連絡をし、速やかなケアがおこなえるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心がけ、本人からの訴えがない際でもトイレ誘導を実施している。また、失禁時にはスキントラブルが発生しないように清潔保持を心がけている。	日中はリハパンの方が多いが、立位の取れる間は出来るだけトイレでの排泄を支援している。本人の排泄パターンを把握し、訴えがない時でも声掛けし誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールを実施し、毎日排便があるようにケアにあっている。必要時には医療職に指示を仰ぐ。また、食べものや飲み物の工夫、運動などを日々取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設定してあるが、希望時に入浴ができるように声掛けを実施している。時間帯にも必ずこの時間でなければならないという決まりは設けていない。また、入浴剤の使用等、入浴を楽しむことができるような工夫を日々検討している。	週2回の入浴を基本としてとしている。その方の状態により併設のデイサービスでのリフト浴の支援もある。また好みの入浴剤を使用するなど入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態にあわせ日中でも休息できる時間を設ける。臥床時には安楽な姿勢が取れるようにクッション等を準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握している。また、錠剤の服用が困難と判断した場合には主治医にその旨を報告し、粉碎にせよらう等飲み易くなるような工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあつた役割をもつていただき、支援を行っている。嗜好品の提供や場所の確保など、満足していただけるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の約束が難しい事も場合によってはあるが、出来る限り希望に添えるようにしている。ドライブなど普段見られない景色を見たり、買い物に同行するなどの支援を行っている。	職員と一緒に緑豊かな周辺の散歩や近くの道の駅での買い物等日常的な外出の他に、いちご狩りや花見・紫陽花見物・紅葉狩りなど車で行く中距離の外出支援も行っている。	利用者の介護度が高くなった影響も考えられるが、アンケートでは外出支援や健康面での不安の声があるので、今後どのような支援が可能かを検討頂き、ご家族ともご相談願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時など、自分の財布から支払えるように支援をしている。但し、貴重品であるために普段は職員が管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望時に気兼ねする事のないように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品の工夫や刺激が強くなり過ぎないように配慮している。職員に合わせると利用者にとっては不快になるという事も都度話しをしている。	玄関や居間など随所に、房総の花々が飾られ一足早く春が訪れている。居間には、利用者の手漉きの和紙に自身の「思い」が墨跡清しく書かれた作品が複数飾られている。東西両ユニットの中間がデイサービスとなり、自由に行き来が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは好きな場所で過ごす事ができるように配慮している。ソファーや一人がけのテーブルなど様々である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具の設置や家族の写真の掲示等、居室内でも心地よく過ごす事ができるように支援をしている。また、ベッドの配置等も本人の生活にあった場所を都度検討している。	本人の馴染みの家具や小物類の配置、家族の写真の掲示等により居心地よく過ごせるよう支援している。ご夫婦でのお試し入居の方はパソコンを持ち込みネットサーフィンなどから情報を得る等、生活の継続が期待される。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にはネームプレートを設置したり、トイレの張り紙を行うなど、混乱することのないように配慮している。また、廊下の照明等早い段階からつけることもある。		